

琵琶湖ヨット倶楽部週報(10-6-9号)

(1) 同志社對名古屋運大才三回定期對校レース は六月二日の日曜日我が湖上で開催された。風速ノ一ノ二米。両校とも大部分新人を主として出場せしめて今後^に備へてゐる心底が窺はれた。勝たうと焦慮した木村が二回とも一着を他に奪はれ、虚心坦懐の山田、土田が一着を奪つた。75-33の大差で同志社が三年連勝した。然し敗れた名古屋運大も勝敗の事を更に意を介せず、愉快に引上げて行ったのは誠に見上げた度胸である。

(2) 琵琶湖ヨット修練の開催 松本、高橋、江崎、塩月氏等の盡力と吉本氏の指導で六月二日から開催した。集まる者二十名、何れも皆熱心な真面目な態度であつた。晴朗、晴玲、晴琳の三艇は合衆して一艇のセーリングを楽しんだ。次回からホトリウの修練に入る筈である。

④ 六月九日 晴天ならば午前十時出祭對岸(山田、志那中沿岸)へクルージングに出かける。当日は各位亦當面持参了。

(3) 艇庫再築 官廳向きの手續が手間取つた上に訂正を要する事となり、四月末或は遅くとも五月初旬に出発するべきものが今日の對校レースやヨット修練の開催までに間に合はず。實に委員は恐縮してゐる。そこで上田委員は後所へ押かけを行つて各課へ書類の督促から認可通過の運動を連日続けてくださった。たゆまず六月三日全部の認可があり即日からは宇野大工が建築に取りかゝる事となつた。着手すれば十日間で出来上がる筈である。屋根は総スレート葺き。再築の晩は前に優じた立派なものとならう。

(4) 海軍カッター 大津御軍会が吳海軍鎮守府から貰つたカッター(神風積載のもの)が石山に捨て小舟の姿となつてゐるのはヨットマンとしては見るに忍びない。そこで上田君が御軍会へ話して我等で之を活用する事となつた。来る八日(土曜日)荒天でない限りD.Y.C.の諸君が石山から柳ヶ崎まで廻航してくれる筈。(上田君、此の旨を石山の

保管者へ御傳へ下さい。) 二十八尺のカッターに、スーン、ミツン、シッブの三枚の帆を併装すれば立派なクルーザーが出来た。今年の暑中休暇は之を利用して D.Y.C. や B.Y.S. (Biwako Yacht Schule) の有志者等と周航して見たい。

(5) 會計報告 昨年十二月會計委員交替後六月に在るついで近々週報以外で報告ある筈。ついでに琵琶湖ヨット倶楽部のために而立替下さりて居られる方は會計委員(宮崎)まで申通知をお願いします。

(6) 足立脩藏氏来湖 下坂の好機を利用して東部の理事長足立脩藏氏は五月廿一日夕刻、林か上田理事を訪問せられ、日本ヨット協会としての沿革、体協加盟後の寄附の件、色々お話し談話があった。
"Olympia Jolle" の圖面を早く送ってほしいとの依頼もあった。

(7) "Olympia Jolle" のデザイン及モールドは鈴木英君が苦心して直接本國へ電報で注文したものが漸く到着。モールドは既にトレースも終り何時でも併覽出来るやうになつた。

(8) 鈴木英君は長期静養を決心され会社の方も今年中欠勤して専心療養せられるに在り来した。健全なる胃腸の持主である鈴木君は必ず以前に倍した健康を取戻さるゝと信じます。

(9) 望遠鏡 岡本専藏君が御自分の結婚記念として望遠鏡を御寄附下さるとの御話ですが、船庫再築、庫内整頓の故に頂く積りです。
"是れかあれば向ふ岸の畑の西瓜が見える" と喜んでおられる御連中もありません。(駒吉多謝) (10-6-5 宮崎)